

『伊勢物語』 「筒井筒」 (文法)

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとにA出でて遊びけるを、大人になり①にければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得②めと思ふ。女はこの男をと思ひつつ、親のBあはずれども、聞かでなむありける。さて、この隣の男のもとより、かくなむ、

筒井筒井筒にかけしまろが丈過ぎにけらしな妹C見 ③ざるまに
女、返し、

くらべこし振り分け髪も肩過ぎ④ぬ君ならずしてたれか上ぐ⑤べき
など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

さて、年ごろD経るほどに、女、親なく、頼りなくなるままに、もろともにE言ふかひなくてあらむやとはとて、河内の国高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。さりけれど、このもとの女、Fあしと思へ⑥るけしきもなく、出だしやりければ、男、異心ありてかかる⑦にやあらむと、思ひ疑ひて、前栽の中に隠れあて、河内へGいぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧じて、うちながめて、

風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆ⑧らむ
とよみけるを聞きて、限りなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。

まれまれかの高安に来てみれば、初めこそH心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づからいひがひ取りて、筒子のうつつはものに盛りけるを見て、心うがりて行かずなりにけり。さりければ、かの女、大和の方を見やりて、

君があたり見つつををらむ生駒山雲な隠しそ雨は降るとも
と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来⑨む。」と言へ⑩り。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、
君来むと言ひ⑩し夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経る

と言ひけれど、男住まずなりにけり。

問一 傍線部A～Hの用言について、動詞は活用 of 行・種類と活用形を、形容詞・形容動詞は活用形 of 種類と活用形を答えなさい (省略した答え方でも構わない)

G	D	A
H	E	B
	F	C

問二 傍線部①～⑩の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

⑩	⑦	④	①
⑪	⑧	⑤	②
	⑨	⑥	③

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとにA出でて遊びけるを、大人になり①にければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得②めと思ふ。女はこの男をと思ひつつ、親のBあはずれども、聞かでなむありける。さて、この隣の男のもとより、かくなむ、

筒井筒井筒にかけしまるが丈過ぎにけらしな妹C見 ③ざるまに
女、返し、

くらべこし振り分け髪も肩過ぎ④ぬ君ならずしてたれか上ぐ⑤べき
など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

さて、年ごろD経るほどに、女、親なく、頼りなくなるままに、もろともにE言ふかひなくてあらむやとはとて、河内の国高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。さりけれど、このもとの女、Fあしと思へ⑥るけしきもなく、出だしやりければ、男、異心ありてかかる⑦にやあらむと、思ひ疑ひて、前栽の中に隠れあて、河内へGいぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧じて、うちながめて、

風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆ⑧らむ
とよみけるを聞きて、限りなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。

まれまれかの高安に来てみれば、初めこそH心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づからいひがひ取りて、筒子のうつつはものに盛りけるを見て、心うがりて行かずなりにけり。さりければ、かの女、大和の方を見やりて、

君があたり見つつををらむ生駒山雲な隠しそ雨は降るとも
と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来⑨む。」と言へ⑩り。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、

君来むと言ひ⑩し夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経る
と言ひけれど、男住まずなりにけり。

問一 傍線部A～Hの用言について、動詞は活用之行・種類と活用形を、形容詞・形容動詞は活用形の種類と活用形を答えなさい（省略した答え方でも構わない）

G	D	A
ナ変	ハ・下二	ダ・下二
連体形	連体形	連用形
H	E	B
ク活用	ク活用	サ・下二
連用形	連用形	已然形
	F	C
	シク活用	マ・上一
	終止形	未然形

問二 傍線部①～⑩の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

⑩	⑦	④	①
完了	断定	完了	完了
終止形	連用形	終止形	連用形
⑪	⑧	⑤	②
過去	現在推量	推量	意志
連体形	連体形	連体形	已然形
	⑨	⑥	③
	意志	存続	打消
	終止形	連体形	連体形